

文芸コーナー

秋雨の一日や作る保存食
すすき野へ身の置きどころ揺らぎおり
秋惜しむ別れの握手痛きほど
酢加減は我が好みとす菊脛
佛壇の父母にコスモス明りかな

童腹寺 五十嵐栄子
大森 吉田 弘子
滝野 佐藤 絹子
発作 関口千代子
岩戸 荒木 コト

俳句

田口 三石選

何もせず過ぎたるひと日よ点しあるハープの香り部屋にひろがる
泣きとよむ子供に母は唄ひをり「涙の数だけ強くなれると」
遅蒔きのコスモスなれど陽に向ひ日ごと伸びゆく蕾をつけて
廃屋と見し家の庭丈高くをみなへし咲くも少し淋しき
吹井戸にトマト胡瓜の冷しある農家の庭に鶏頭の咲く

小林 本間百々代
小倉台 小澤美美子
西の原 新井 陽子
別所 熱田 克子
小倉台 後藤 貞子

短歌

加藤恵美子選

ほっとレポート



おくだ よしふみ
広報レポーター：岡田 芳文 (平賀)

木下河岸の繁栄を今に伝える

「吉岡まちかど博物館」

吉岡まちかど博物館(木下1484)は白壁の土蔵。江戸明治時代に、この地に繁栄をもたらした木下河岸と木下街道の繁栄の名残りの品々を伝えている。土蔵そのものも当時この地で河岸問屋・回漕店を営む界隈きつての豪商・吉岡家が実際に使用していた蔵で明治24年に建造されたものだ。

傷みが酷かったこの土蔵を市民団体の「木下まち育て塾(伊藤哲之会長)」が無償で借り受け、東京電機大学や地域住民の協力を得て修復、平成16年秋に吉岡まちかど博物館として再生した。以来、毎月一回、第一土曜日に一般公開するかわら、23年にシロアリや東日本大震災による被害の修復など本格的なリニューアル工事を行い現在の姿になった。まさに市民手作りの博物館で、木下河岸三社詣出舟之図や山岡鉄舟筆による「銚港丸」の書・写真や銭箱、印半纏などの史料のほか、付属の竹庭には国指定天然記念物「木下貝層」の貝の化石で造られた灯籠、水運の守り神・水天宮の社もあり、訪れる人々にかつての隆盛を謳っている。



▲「吉岡まちかど博物館」の外観

◀伊藤会長(左)の説明で一階の展示コーナーを見学。中には資料がズラリ



▶二階では年4回に分けて「寺子屋吉岡」を開催



今も残る木下街道は江戸と下利根川方面を結ぶ最短の陸路として整備された。元禄年間には江戸の人口は100万人を超えたとされている。

その中であって吉岡家は江戸期に河岸問屋、名主を務め、明治に入り蒸気船と郵便事業を行い、明治10年

その胃を満たすには東京湾の魚介だけでは追いつかなくなった。そこで注目されたのが銚子沖で獲れる鮮魚類。これをいかに早く江戸に運ぶかで脚光を浴びたのが、銚子・木下は船で利根川を遡り、木下街道を辿って行徳河岸、そして日本橋小網町に至るルートだった。木下河岸は鮮魚輸送の荷揚げ、幕府公認の城米津出し河岸として大繁栄をした。この勢いは明治に入っても続き、文明開化の象徴でもある蒸気船が行き交う木下には当時、旅館が14も軒を連ねたという。

代には相次ぎ蒸気船「銚港丸」を建造、日本最大の個人汽船業者になった(吉岡まちかど博物館改修記録から)。

まち育て塾の伊藤会長は「木下駅には今も10数棟の蔵・町屋があるが、朽ち果てる運命のものも多い。町の宝として保存・活用を進めたい。それが街おこしにつながる」と期待している。このため、毎月第三土曜日には木下の歴史を学ぶ市民公開講座「寺子屋吉岡」(会場は博物館2階)を開催。また、随時市民ワークショップを開催しており、「多くの人が参加してもらい、木下の良さを実感してもらいたい」と呼び掛けている。

岡田 芳文(平賀) <http://eb.fc2.com/> / <http://kioroshimachijuku.w>

施設がいに★

印旛特別支援学校

広報レポーター：阿部 純 (小倉台)



「印旛特別支援学校」(平賀1160-2)は、県立の学校です。訪問した時は下校時間で、生徒はスクールバスや家族の車などで帰宅する時間帯



▲閑静な住宅街に隣接する印旛特別支援学校の外観

でした。そんな慌ただしい中、小林克彦校長と砂川博延教頭が、丁寧に対応してくださいました。

同校は、知的障害や重複した障害のある小学部、中学部、高等部の児童・生徒を一体的に教育する学校で、現在207人が在籍しています。このうち15人は、今年4月から佐倉南高校に開設された「さくら分校」に通学中。現在、児童・生徒

数が増加してきたため教室が足らず、特別教室を普通教室に充てて対応されていました。

砂川教頭に教育指導の重点について伺いすると「小学部では、食事や着替え、排泄などの基本的な生活の力、中学部では社会生活に向け、自分を発揮できる力、高等部では就職や施設での仕事を目標として社会参加できる力を身につけること、またいずれの学部でも自分の役割を担って果たそうとする態度や姿勢を育てる」とのこと。

校内を巡ると、廊下や踊り場は、ゆったりと広く各教室にはエレベーターも備わっていました。また、車いす用昇降口のスロープ、手すりの付いたトイレなど



▲「いんば祭」でにぎわう校内



▲高等部の生徒による真心こもった作品

随所にバリアフリーの配慮が見られます。高等部には工芸室・木工室・陶芸室・手芸室などの作業室があり、各々の教室の棚や机上には、さまざまな手作りの作品が沢山保管されていました。これらの作品は、同校で毎年10月に開催する「いんば祭り」やよしきりフェアでも販売されています。また、

木工室で教材準備中の先生のご厚意で、生徒の作った木製のコースターやペンケース、マガジンラックなどを拝見。いずれも木のぬくもりを生かし、丁寧に心のこめられた製品で、児童生徒のみならず、明るい笑顔で学習する姿が目に見え、教職員のみならず、温かい支援の姿を感じました。

取材中、砂川教頭から「市民のみならずには、毎年9月に行われる学校公開日をほじめ、いろいろな機会にぜひ当校に足を運んでいただきたい。そして障害のある子どもたちのごことについて知っていただきたい」という話を伺い、それが心に強く残りました。

印旛特別支援学校 (☎0476-22000) <http://www.hiba-c.ed.jp/inba-sh/>

リサイクル情報広場

掲載情報は10月29日現在
☎クリーン推進課クリーン推進班(☎内線383)

◆ゆずりませ情報 (有料の物は希望価格)

- ①ハイローベット&チェア(4千円)②しおん幼稚園の制服・ブレザー・スカート③しおん幼稚園の帽子一式④しおん幼稚園の赤バック⑤しおん幼稚園の体操服⑥バストロンボーン(6万円程度)⑦碁盤(3寸足付き)と碁石セット(1千円)⑧琴(楽器)⑨ノートパソコン(1万円)⑩電子レンジ(4千円)。

◆さがしています情報

- ①大森小学校男子体操服②ピアノ(アップライト)③印西中学校の女子用制服と運動着④しおん幼稚園男児、女児用ジャージ、男児、女児用体操服(大きめサイズ希望)⑤天神幼稚園男児、女児制服、ブラウスなど⑥犬用乳母車⑦ベビーカー⑧補聴器。 ※詳しくは市ホームページをご覧ください

毎月5日は「ノーレジ袋デー」です。お買い物にはマイバッグを持参しましょう。

